

桃と桜

2020.4.14

昨日は、春の嵐であった。今年も懸命に咲いてくれた桜の花びらの多くが飛び散ってしまい、何だかわいそうである。どうも昔から桜が咲いている時期には、急に気温が下がったりする日が必ずある。これも桜の運命なのだろうか。

昨年度から梁川高校に勤務するようになり、毎朝「桑折ピーチライン」というルートを通って福島から梁川に通っている。まさしく桃畑の中を走り抜ける一般農道である。桃の花が咲いている今が、ピーチラインにとっては最高のシーズンである。加えて、何か所かで桜の花を見ることができる。桃と桜の競演である。

去年は、きれいな桃の花に感動し、それを愛でながら車を運転していた。桜もきれいだった。ところが今年は、桃も桜も例年と同じように咲いているはずなのに、素直にきれいだとは思えない。同じ花でも見る人の心持ちによって変わるのだと知った。

この感覚は、2011年の4月と似ている。当時、私は南会津の中学校に勤務していた。単身赴任である。福島と南会津では春がずれる。私の記憶では、福島と南会津のルート上では春が4回きた。それだけ桜の開花時期がずれるのである。約1ヶ月間にわたって桜を見ることができた。

しかし、1ヶ月間、桜をきれいだとは思えなかった。あのときは、4月から転勤のはずだった。それが凍結になり、いったいつになったら転勤になるのか見通しが立たないまま、福島と南会津を往復していた。そんな私を桜は励ましてくれていたのかもしれないが、どうしても寂しげに儂げに見えてしまっていた。

今年の桜は、寂しいとか儂いとはまた違った趣だった。元気がないと感じた。勢いを感じないのである。実際はそんなことはないのだろう。いつもと変わらないはずである。元気がなく勢いがないのは私自身である。今回も見通しが立たない。

桜に比べると桃の花のほうは、まだ明るさが感じられる。これから夏に向けて成長し、りっぱな実をつけようとしているからだろう。その頃には、今の状況は好転しているだろうか。そう思いたいし、そうなるように努力しなければならない。

梁川高校の生徒は、新学期がスタートして以来、非常に高い出席率である。ほぼ全員が毎日登校している。マスクも全員がしている。学校は、生徒の“気持ち”に応えなければならない。きっと生徒には桃の花も桜の花もきれいに見えているはずである。花たちも健気だが、生徒たちも健気である。

教育環境としては、例年に比べて万全とは言い難いが、その分、教員の愛情と指導力で、生徒たちの思いに応えたい。例年以上に、一日一日がかけがえのない大切な時間となる。このような状況だからこそ、人と人との結び付き、結束が求められる。

嵐はいずれ収まる。そして穏やかな日が必ずやってくる。桃の花も桜の花も、そして人間もそんなに弱くはない。必ず毎年見事な花を咲かせるはずである。冬が厳しいときほど、りっぱな花を咲かせるのではなかろうか。花も人も同じである。